

斑点米カメムシ類の計画的な防除の推進

1 対象

斑点米カメムシ類の防除策に取り組む生産者のうち重点対象1経営体（日進市）

2 背景

近年温暖化の影響もあり斑点米カメムシ類の発生が増えている。中でもイネカメムシは、籾の基部を吸汁することから出穂期に被害を受けると籾が不稔となり、収量低下につながることから大きな問題になっている。不稔の被害を防ぐには出穂期の防除が効果的であり、斑点米の被害を防ぐには出穂7日から14日後頃にもう一回防除を行うのが効果的である。

斑点米カメムシ類の防除に取り組む1経営体を対象に、薬剤散布による防除効果の確認を行い次年度以降も計画的防除できるよう支援を行った。

3 活動の内容

(1) 薬剤による斑点米カメムシ類の防除指導と調査

ジノテフラン液剤による2回防除、1回防除、無防除、ジノテフラン豆つぶ剤による1回防除の4区を設けて、防除前と2回防除後に斑点米カメムシ類の掬い取り調査を行い、結果を生産者と共有して効果を検討した。

(2) 斑点米カメムシ類の被害状況と収量の確認

各試験区から穂を10本採取し、籾を酸性フクシン水溶液で染色し被害籾率を調査した。また、各区の収量を調査して、結果を生産者と共有して効果を検討した。

(3) 計画的な防除へ向けた指針の作成

調査結果と今年度の全体的な発生傾向から、令和7年産へ向けた防除対策の指針を作成し、次年度以降、計画的防除が定着するように啓発した。

表1 試験区の構成

区	移植日	出穂期	1回目散布			2回目散布		
			散布日	薬剤名	散布方法	散布日	薬剤名	散布方法
2回散布	6/15	8/28	9/3	ジノテフラン 液剤	ドローン	9/10	ジノテフラン 液剤	ドローン
1回散布	6/15	8/28	9/3	ジノテフラン 液剤	ドローン	—		
豆つぶ散布	6/15	8/28	9/3	ジノテフラン剤(豆つぶ)	手散布	—		
無散布	6/15	8/26	—			—		

表2 斑点米カメムシ類の捕獲状況と籾の吸汁痕

区	1回目散布前(8/26調査)			2回目散布前(9/9)			2回目散布8日後(9/18)					吸汁痕(%)
	ホソハリカメムシ	シラホシカメムシ	カスミカメ類	ホソハリカメムシ	シラホシカメムシ	カスミカメ類	イネカメムシ(幼)	ホソハリカメムシ	ミナミアオカメムシ	シラホシカメムシ	カスミカメ類	
ほ場内	2回散布											2.5%
	1回散布						1					4.4%
	豆つぶ		1						1			4.5%
	無散布						4	1	3			5.9%
畦畔	2回散布	1										
	1回散布		2				1					
	豆つぶ								4			
	無散布	5	4	2	2	4	5	4	5	1	1	

4 活動の成果

防除の重要性が認識され、令和7年以降もドローンを使ったジノテフラン液剤の出穂期防除が、発生が多かったコシヒカリを中心に実施される見込みになった。